

映画化への道程：拡大版 ●想像力と知的好奇心が刺激される映画 古里映画『この空の花―長岡花火物語』

大林監督・恭子プロデューサー



初号試写



「長岡映画」製作委員会代表 渡辺 千雅

さんの心のスクリーンに映った時、初めて「映画」になる。「映画」とは対話である。」と仰います。さて、今回、200人の心のスクリーンに『この空の花』はどのように映ったのでしょうか？興味深いところですよ。そこで、いくつかのコメントをご紹介します。

まず、茂木健一郎さんは、昨年の長岡花火をご覧になった後、「脳が追いつかない時に感動がある！」と語りました。その茂木さんが、試写終了後の感想をインターネット上にアップされており、「素晴らしいかった。クリエイターとしてのチャレンジャー精神に心からの敬意。ずっと、追いつけなかった。」と書かれていました。

監督の娘さんで、映画思想家の大林千葉さんの言葉を借りるならば、この映画は「『笛吹川』の実験精神、『HOUSE』的絵面、『理由』的手法で、綴られたセミ・ドキュメンタリー」とのこと。映画好きの方なら、この表現だけでイメージがつかもできません(笑)。



大林千葉さん

続いて、今回の映画にも出演され、国内外で演劇活動されている大谷賢治郎さんのコメント。「あらゆる時空が凝縮されており、そ

の映像は遙かに想像を超えていました。ものすごいスピードで想像力を喚起させられる作品です。これからは生きる子どもたちに特に観てほしい！僕はこの作品の創造過程に参加出来たことを誇りに思います。」



大谷賢治郎さん

また、「長岡映画」製作委員会の事務局長でもある長岡市商工部長の品田満さんからもコメントを頂きました。「物語オーブニングの疾走感が素晴らしい。元木花があやつる。一輪車に追いつこうと、慣れぬワンダーランドで懸命にがんばるも、膝に来て、腰に来て、寄る年並みか少し眩暈も……。ファンタジーのパワーや恐るべし、必見です。」じつは、品田さんは、この映画のどこかで登場しています、見つけられるかな？

さて、この映画は長岡の歴史がぎゅっしり詰まった宝箱です。この中には監督のトリックがあらちちらに仕掛けられていて、私たちの想像力が試されます。一度の挑戦で簡単に宝が手に入ると満足する人もいるでしょう。しかし、恐らく、あなたの知的好奇心はさらに掻き立てられ、つかみ損なった、見過ごしてしまった宝をもう一度、探しに行きたくなることでしょう。『長岡ワンダーランド』に何度も挑戦したくなるに違いありません。どうぞ、この映画の虜にならないようにお気をつけください(笑)。



品田満さん

例えば、模擬原子爆弾が落とされた左近土手のシーンがあります。この背景には、真っ青な空に白い入道雲がモクモク湧きあがっており、「キノコ雲」を連想させます。また被爆二世の玲子が恋人の健一に理由も言わずに別れるシーンがあります。健一は雨の中を走り去る玲子の背中に向かって「この雨、痛いなあ！」と吐き捨てるように叫ぶのです。恐らく、この雨は「黒い雨」を想像させるものではないか？二回目の試写で発見した、新たな宝です。こうした監督のトリックは映像や台詞、音など多岐に散らばっています。試写終了後の監督は終始、いつもの穏やかな笑顔。この映画で「あくした、こくした」など、ひと言もお話になりません。私たちの「心のスクリーン」に映った映画を私たち自身で楽しんで欲しい様子です。

長岡映画「この空の花」ついに完成！ 4月7日(土)県内先行ロードショー決定

長岡市を舞台に過去、現在、未来へと時をまたぐ映像。大林宣彦監督による新作映画がついに完成！一般公開に先駆け、先行上映決定。

●前売り券の販売
上映館(販売所)／T・ジョイ長岡(千秋2)、T・ジョイ新潟万代、ユナイテッドシネマ新潟、J-MAX
料金／一般1,300円(通常1,800円)、3歳～中学生800円(通常1,000円)
★最新情報は公式HP <http://www.konosoranhana.jp>
●映画「この空の花」展：雪しか祭り会場
映画撮影時の大道具や撮影風景のパネル展示。前売り券販売あり。
日時／2月18日(土)午後1時～4時、19日(日)午前10時～午後4時
会場＝ハイブ長岡



伊勢正三さん

今年1月13日、制作に直接関わった人たちが見る初号試写が、五反田の映像センターで開かれました。ついに、古里映画『この空の花―長岡花火物語』は誕生の時を迎えたのです！試写室200席は映画関係者で満席です。中央席には作曲家の久石譲ご夫妻、伊勢正三ご夫妻、茂木健一郎さん、脚本家の長谷川孝治さん、俳優の高嶋政宏さん、村田雄浩さん、根岸季衣さんといったお顔が並んでいます。

大林監督のご挨拶が終わり、いよいよ試写のスタートです。スクリーンに映像と音が流れます。主題曲は久石譲さん作曲の『この空の花』、編曲は山下康介さん。ボレロのリズムが力強く刻まれる中に、ゆったりと自然を包み込むようなメロディーが流れます。緊張と緩和が交差する巧みな音楽です。エンディングに流れる主題歌は、伊勢正三さんの『それは遠い夏』。自分の中の、あの居心地の良かった時間やなつかしい思い出が甦ってくるような歌声です。2時間40分の長編でありながら、リズムカルでスピーディーな展開、あつという間でした。できれば、すぐにでも、もう一度、観たい、そんな気持ちにさせられます。

監督は常々、「スクリーンに上映された映像が、皆



長岡映画を応援する会

「長岡映画を応援する会」は、映画「この空の花―長岡花火物語」を応援しています



長岡映画を応援する会

代表：伊丹敏彦

副代表：桜井カツエ(皆既日食を元気で見る会)

- 阿部煙火工業(株)・池田組(株)と三栄会・石田 章・大井尚敏
- 小川 廣・恩田真弓(有)小千谷煙火興業・角上魚類(株)・川崎福和
- 木村信男・新潟煙火工業(株)・日本容器工業(株)・齋藤伸輔
- 七里貞雄・高田清太郎・左近六蔵・深見政英・藤井英雄
- マザーズクレーブ新潟、長岡・毛利敏男・鷲尾達雄・渡辺昭彦
- 三条印刷(株)・日豊電機(株)・浅野久一・小川敬子・林 幸一
- 細川恭一・江口清市・相田東洋雄・近藤道弥
- 土屋蔵造・矢尾板秀男・井口タツ・北沢昭夫(有)嘉瀬煙火工業
- 大隅勝男・他大勢の皆さま

●4/7の映画公開日には、監督や主要キャストが長岡に再集結！
舞台挨拶やアオーレ誕生祭に出演予定。
問合せ先：長岡映画製作委員会事務局(観光課内)TEL.0258-39-2221